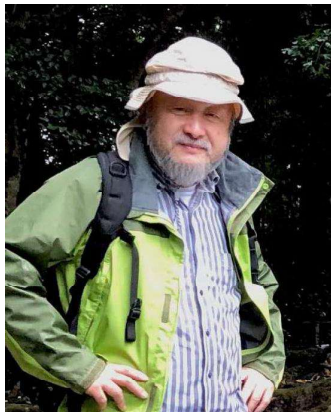




本協議会は、竹に関する団体や個人の有機的な幅広い交流を図ることを目的とし、竹に関する情報の提供やイベント開催などを鳥取県内の産学金官民の各機関で連携して行っています。



会長 佐野 淳之

森林教育研究所 所長
元 鳥取大学農学部教授

コロナ禍が落ち着きつつあると思っていたらインフルエンザが広がるなど、まだまだ油断できない日々が続いています。会員の皆さまにおかれましては相変わらずお元気で竹に取り組んでおられることと存じます。

昨年度は恒例のバスツアーと竹利用フェスティバルを開催し、会員向け・一般向けともに多くの方にご好評をいただきました。特にフェスティバルには毎年参加してくださるご家族をはじめ、多くのご来場者がありました。2024年度はハチクやネザサの約120年ぶりとされる開花をめぐるご講演を拝聴し、2025年度はさらにクロチクの開花も観察され、クロチクの開花に取り組んでいる高校生の発表も行われました。こうした稀な現象が続くことに驚かされますが、遺伝子の関与も示唆されており、今後の研究の発展が期待されます。みなさまの周りでもタケ・ササの開花・結実・枯死が見られましたらご一報いただけると幸いです。

季節変化も例年以上で、酷暑の夏が過ぎたかと思うと紅葉を楽しむ余裕もなく雪の多い冬となり、春もあっという間に過ぎ去り、今年もまた酷暑の夏が始まりました。地球温暖化は私たちの暮らしや竹の生態にも影響を与えていますが、過去の気候変動を乗り越えて進化してきた生物たちを注意深く観察し、知見を共有して、ヒトとしての知性と感性を活かした活動が続けていきたいと考えています。

今回のニュースレターは、これまでにお知らせできていなかった2024年度の協議会の活動について掲載します。2025年度の活動報告は次号に掲載予定です。

2024竹林整備と竹材利用の体験イベントレポート（2024年8月24日（土）開催）

2024年のバスツアーは、西部開催ということで、同日開催される加茂川まつりとのコラボ企画とし、まつりで加茂川沿いに並べるロウソクを竹灯りにし、加茂川を彩りました。まつりに協力している米子北高等学校の生徒もツアーに参加しました。

ツアーでは、清水川神社（南部町）の竹林を整備しました。真夏の開催でしたが、竹林内は涼しく作業ができました。その後、プラザ西伯では江府町で純国産メンマ作り等をされている山ラボさんのメンマ作りから商品開発への取組を講演いただきました。試食の味付けメンマは非常に美味でした。講演後は、伐採した竹で竹灯り製作をし、特に米子北高生は、加茂川まつりで展示する竹灯りを一生懸命製作していました。



竹利用フェスティバル ～Bring-Bang-Bamboo 竹の魅力で地域に輝きを！～

当イベントも徐々に定着してきたようで、午前中から多くの来場者で会場はにぎわっており、竹灯籠や竹のおもちゃなどのクラフト体験をされる方、竹炭や竹紛を原料とした土壌改良剤などの製品について興味深く説明を聞いている姿など、幅広い世代の皆様にも、楽しみながら竹について理解を深めていただくことができました。今回は、例年の竹製品の制作体験・展示・販売に加えて、食部門も欲しいということで、バスツアーで講演いただいた山ラボさんのメンマの試食や鳥取市で人気のごはん山okaさんのイベント限定メンマ入りおにぎりの販売など新たな試みをしました。

今回の講演は、高校生や大学生などの若い世代に竹に興味を持っていただき、竹の利活用に携わってほしいという想いから、鳥取西高等学校の生徒や早稲田大学B A M部の学生をお招きしました。また、鳥取県では120年に一度といわれるネザサの開花が見られる年であったため、森林総合研究所で竹の開花を研究されている小林慧人氏をお招きし、竹の開花についてわかりやすく興味深い内容で講演いただきました。

- ◆と き：2025年2月16日（日） 10:00～15:30
- ◆ところ：とりぎん文化会館（鳥取県立県民文化会館）



講演会① 「竹の魅力と最近の国内の竹事情」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所
森林生態研究グループ 小林慧人

竹林や森林生態学を専門としておられ、一般社団法人竹文化振興協会が発行する会誌「竹」・Bamboo Journal編集委員を務めておられます。

学生の頃から竹林で生態研究を進める傍ら、竹の歴史・文化や各地で竹に関わる人にも興味を持ちフィールドワークを行っている小林さんならではの視点で、生態学に留まらない人と竹の関係性を踏まえた竹の魅力をわかりやすく説明いただき、最初から最後まで非常におもしろく興味深い内容の講演でした。



講演会② 「鳥取市内におけるネザサの一斉開花 ～ネザサは減少していくのか～」

鳥取県立鳥取西高等学校自然科学部生物班2年生
伊藤駿、下田悠翔、吉田昂太

高校授業のカリキュラムの一環で、竹に関心のあった3人の生徒による共同研究の成果を発表していただきました。

発表された内容は、大学の卒業論文を彷彿とさせるほどハイレベルな内容であり、調査、データの分析、考察まで順序だって丁寧に説明され、分かりやすくまとめられていました。

竹の一斉開花という未解明な点の多い難題について、講演を聞いた私たちも考察を深めることができ、謎多き竹への関心が高まる内容でした。



講演会③ 「大学生がなぜ 竹活へ？」

早稲田大学地方創生サークルBAM部商品開発部門
法政大学経済学部国際経済学科4年生
株式会社Piety 広報 小林涼雅

自称・超「広報運動家型（ENFP）」な大学4年生の小林さんには、東京にいながなぜ竹に興味を持ったのか？そして、竹の魅力、竹による人との繋がりについてお話をいただきました。

自身の生い立ちやコロナ禍での外出制限の苦悩から、新たなことへの挑戦として、地方創生に取り組む早稲田大学BAM部に所属し、学生ならではの発想を活かした竹の利活用や精力的な活動内容等を紹介されました。

最後は、自分の大切にしている事で締めくくられ、心を動かされた方がおられものと思います。



講演会④ 「竹と人が織りなす鳥取物語 ～鳥取で匠の技と心に出会って～」

地域開発コーディネーター
平野明日香

『美しい竹を「厄介者」から「愛される存在」に変えたい』という燃えるような熱い想いをもち、竹を活用するNPO法人を立ち上げるなど、鳥取県内外問わず竹に関する活動をされています。竹協議会の会員で、「PR大使」に任命されています。

お話からは、平野さんの地域へのリスペクト、竹の可能性を信じ挑み続ける信念とその行動力がよく伝わり、平野さんの魅力たっぷりの内容でした。

みんなで知恵を出し合い、同じ目標に向けて頑張れば竹の未来は明るい！そんな気持ちになりました。

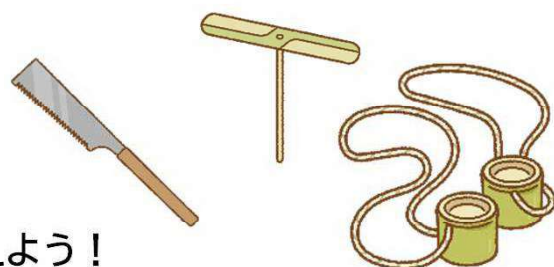
※活動にご賛同いただける方を募集されています。





お知らせ

竹に関する連携協議会のイベント



【予告】竹を切って・使って竹林整備について考えよう！

モノづくりのプロに教わりながら好きな形に竹を切って、工作体験できる竹林整備体験型イベントを開催します。おって鳥取県ホームページにおいて、参加者募集についてお知らせする予定ですので、お誘いあわせのうえ御参加ください。

日時：2026年11月28日（土）9:00～13:00

場所：とっとり出会いの森（鳥取県鳥取市桂見293） ※日時・場所は変更になることがあります。

竹に関するトピック

■鳥取かぐや祭 inとっとり花回廊

南部町内の竹林整備で生まれた「竹」と、地元の飲食店や家庭から回収した「廃油」を原料とする竹あかりろうそくを灯すことで、地域の里山再生と環境循環の象徴としたいと南部町観光協会が企画されたそうです。

イベントは昨年11月1日に開催され、11月14日から翌年1月12日まで『とっとり花回廊フラワーイルミネーション×竹あかりライトアップ期間』としてイベントで設置された竹あかりが引き続き園内で展示されていました。

このような取組を通じ、優しい灯を眺めながら、竹利用に思いを馳せてみるのもよいと思います。



■一斉ライトダウンイベント in鳥取県庁

脱炭素社会を目指す取り組みの一環として、7月7日に鳥取県庁でライトダウンイベントが行われました。

県庁ロビーで行われたセレモニーでは、本協議会会員の竹灯籠工房様と、セレモニーに参加した地元の小学生が同工房の指導のもと事前に製作した竹灯籠が飾られました。

環境問題に取り組む大学生や小学生などが参加し、笹に短冊を飾り付けた後、カウントダウンでロビーの明かりが消されると、会場は自然素材である竹灯籠の優しい灯りに照らされ、改めて地球を大切にしていこうという気持ちになる一夜となりました。



入会の申し込み、ニュースレター、パンフレット等のご請求、竹活用情報の提供は、下記までご連絡ください。



竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会 事務局
鳥取県農林水産部森林・林業振興局県産材・林産振興課（担当：太田、津村）
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目220
TEL：0857-26-7307 FAX：0857-26-8192
E-mail：kensanzai-rinsan@pref.tottori.lg.jp